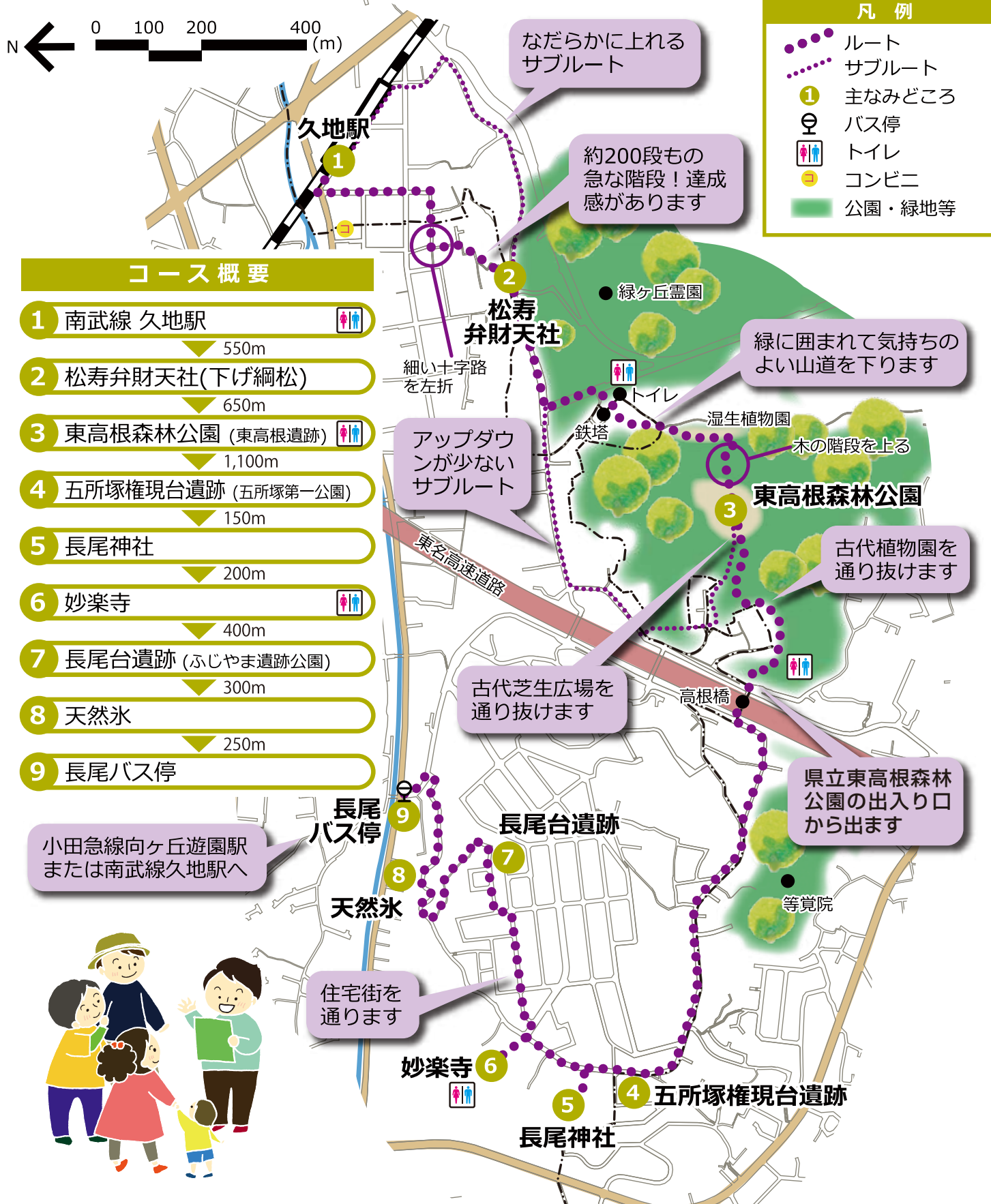


東高根森林公園と長尾の里めぐり

東高根遺跡や天然記念物であるシラカシ林を有する、多摩丘陵の懐かしくも美しい自然を今に伝える東高根森林公園をはじめ、長尾の里の様々な遺跡、アジサイで有名な妙楽寺などをめぐる、歴史・花・自然を楽しめるコースです。

距離：3.6km
時間：3時間
難易度：健脚向き



松寿弁財天社（下げ綱松）

松寿弁財天のあるこの場所は、多摩川を見下ろす急峻な台上で、この丘陵は古くは城塞の役目を果たしていました。「下げ綱松」については、稲毛三郎重成や豊臣秀吉の小田原攻めに参戦した上杉の兵人たちが多摩川で洪水に遭い、老松に綱を掛けて助かったという伝承があります。更に天保時代には、古木になった「下げ綱松」に強い霊験が宿るという信仰が集まり、江戸からの参拝者が絶えなかったといわれています。



東高根森林公園（東高根遺跡）

多摩丘陵東部川崎市のほぼ中央に位置する東高根森林公園は、南北二つの台地と二つの谷戸がある丘陵地形の中にシラカシ林、クヌギ・コナラ林等の樹林地、水田湿生植物園等がある緑豊かで静かな公園です。

現在の古代芝生広場は弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡を主とする集落跡が埋蔵保存されており、その周囲を天然記念物に指定されているシラカシ林が取り囲んでいます。



五所塚権現台遺跡（五所塚第一公園）

この場所は地元では古くから五所塚とよばれてきました。五所塚第一公園内には直径 4m、高さ 2m ほどの塚が 5 つ南北に並んでおり、外観が古墳時代の高塚古墳に似ていることから、江戸時代の地誌等では墳墓と考えられていましたが、中世や近世になり、村境や尾根筋に築かれた十三塚と同様な信仰に基づく「境」信仰の塚であったと考えられています。



長尾神社

長尾神社の社叢林は、いわゆる鎮守の森と称し、昭和 53 年（1978 年）9 月、指定第 21 号によって、川崎市により保存樹林に指定された貴重な森です。主な樹林はマツ・シラカシ・イヌシデ。この神社は五所権現社と赤城社が合祀されたもので、五穀豊饒を祈り、氏子 2 人と稚児 2 人が的を射る「マトー」と呼ばれる伝統行事で古くから知られています。

地元の人々は親しみをもってこの神社を「権現様」とよんでいます。



妙楽寺

約 1,000 本のアジサイが咲く妙楽寺の歴史は古く、木造薬師如来両脇侍像（川崎市重要歴史文化財）を修復する際、日光菩薩像の胎内から発見された墨書により、この寺が長尾山威光寺の旧跡であることがわかりました。また鎌倉時代、源氏累代の祈祷所であった威光寺は、鎌倉時代初期に頼朝の弟・全成（幼名 今若丸）をこの寺の住職にしていたことも歴史書「東鏡（あずまかがみ）」から伝えられています。



長尾台遺跡

縄文・弥生・古墳時代の三時期の集落跡で昭和 44 年～ 45 年（1969 年～ 1970 年）の頃の調査・発掘で竪穴住居跡が保存されています。この台地で最初に集落を営んだのは主に狩猟や植物食等の採集生活をした縄文人（紀元前 4,000 年頃）とされています。彼らの住居は地面を掘った中に炉がある半地下式の竪穴住居で、その後は稲作技術を習得した弥生人が、更にその後には古墳時代の人々がこの地に集落を営んだとされています。



天然氷

長尾では、冬に二ヶ領用水の水を利用して天然氷を作っていました。場所は旧向ヶ丘遊園正門そばの山裾から J R 久地駅あたりまでの丘陵地帯で、日中も日陰の場所に溜め池が 84 ケ所も作られていました。池は長方形で約 5.6 坪、深さは 2 尺程度、周囲に厚さ 3 寸以上の松板かレンガを積み、さらに底には厚さ 2 寸 5 分～ 3 寸以上の砂利かレンガを敷いたとされています。夏の盛りに東京渋谷方面へ出荷し、明治 14 年（1881 年）頃～大正 11 年（1922 年）まで続いたといわれています。